

当別でのトレーニングで
ディスクドッグの世界チャンピオンに

ペットシッター

高岩 Takaiwa Mari 万里さん



対雁でトレーニングを重ねる高岩万里さんと愛犬カイ（オス、4歳）

信頼を築く犬との接し方

犬と競技者がペアで行うドッグスポーツ、ディスクドッグの世界大会が10月15、16日にアメリカのジョージア州カーターズビル市で行われ、対雁のドッグスポーツ練習場所属の高岩万里さんが、2度目の挑戦で見事優勝しました。町内でペットシッターも営む高岩さんにペットとの接し方について聞きました。

最近になって気付いたのは、犬の順応力の高さとしたたかさです。「犬はなまけもの」という人もいますが、狼が自分で獲物を捕らえるのと違い、犬は長い間、人間に飼われながら生きてきました。そして人間と上手に付き合うことで生きていく方法を身につけたのです。主人と一緒にいたい、生きたいという生き物なんですね。

しつけは簡単ではありません。よく観察し、その子を知ることが大切です。犬も褒められたいので、出来た時にタイミングよく褒めてあげることによって信頼関係が生まれ、人を理解しようという意欲が育ちます。出来ない時は、上手く伝わっていないということ。飼い主が伝える工夫をし、根気よく接することが必要だと思います。心が通じあえた時、本当にうれしいですね。私も練習の後、上手く褒める事ができたか、しっかり伝わったかを振り返ります。関わりすぎ、やりすぎも禁物。今回、渡米前の半月は、できるだけ練習を控えました。それが大会での弾けるようなカイの動きを引出し、優勝につながったのだと思います。

犬との深い関わりは、結婚10年目の時。主人が指輪をプレゼントすると言って

くれましたが、その時、私は指輪より犬を選んだのです。人間と一緒に仕事をする犬種のボーダーコリーに以前から興味があり、ペットとして飼うことになりました。今のようにドッグスポーツに取り組むのはずっと後のことで、彼が来てからは我家の雰囲気が変わりました。会話が增えたり、優しくなったように思います。家族の絆を教えてくれたのです。

飼い方は犬に合わせて無理をすることはないと思います。食事と排泄など基本の世話以外は、家族の生活スタイルに合わせていけばいいのです。毎日の散歩も絶対必要かといえば、そうとも限らないと思います。飼い主がどれだけ自分達のことを気にしているのか、彼らはそれを感じ取って生きているのです。（11月11日取材）